

Vol.19(2021) No.07(04/01)L03

COVID-19 入院患者の死亡率におけるトシリズマブの効果:無作為化比較試験のメタアナリシス

[The effect of tocilizumab on mortality in hospitalized patients with COVID-19: a meta-analysis of randomized controlled trials](#)

Kow CS, Hasan SS

【Eur J Clin Pharmacol. 2021 Feb 2:1-6】-peer reviewed (査読済み)

(要旨)

◇目的

COVID-19患者の死亡リスクに対するトシリズマブの全体的な効果を概括するため、無作為化比較試験(RCT)のメタアナリシスを実施した。

◇方法

本研究では2021年1月7日までの、PubMed, Cochrane Central Register of Controlled Trials, Google Scholar, およびmedRxiv(プレプリント・リポジトリ)のデータベースをシステマティックに検索した。ランダム効果モデルと逆分散異質性モデルを用いて、統合効果量[95%信頼区間(CI)]を算出した。組み入れたRCTのバイアスリスクは、無作為化試験のためのCochrane risk-of-bias tool ver.2を用いて評価した。

◇結果

6報のRCTを研究に組み入れた。そのうち2報はバイアスリスクが全体的に低く、4報は全体的なバイアスリスクについていくらか懸念があった。本メタアナリシスでは、COVID-19患者にトシリズマブを使用した場合の死亡率について、トシリズマブ非使用患者に比べ、有意なベネフィットはみられなかった(統合ハザード比0.83;95%CI [0.66~1.05];n=2,057)。興味深いことに、人工呼吸の必要性および/または全死因死亡から成る複合エンドポイントに対して推定されたトシリズマブの効果は臨床的ベネフィットを示し(統合ハザード比0.62;95%CI[0.42~0.91], n=749)、現行のサンプルサイズでは有意な効果は示されないであろうという仮説に反するエビデンスもいくらか見出された。

◇結論

COVID-19 入院患者の死亡率に対し明確なベネフィットは示されなかったが、トシリズマブは人工呼吸器使用へ進行するリスクを低減するようと思われる。